



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

日赤茨城

2023. 冬号

茨城県支部

Red Cross Ibaraki



Bangladesh 保健医療支援事業 © Bangladesh Red Crescent Society

日本赤十字社は、世界中の災害や紛争、病気などに苦しむ人々を救うため、世界最大の赤十字のネットワークを活かして、緊急時の救援や復興支援、感染症予防活動に取り組んでいます。

茨城県支部では、ミャンマーからの避難民流入が続く Bangladesh での保健医療支援事業や、災害が頻発しているインドネシア・ジャワ島南部での防災強化事業などのために、皆さまから寄せられた活動資金の一部を本社を通じて現地に届けています。

世界には、皆さまの支援を必要としている人たちがいます。本年も引き続き活動資金へのご協力をよろしくお願いいたします。

発行元

日本赤十字社 茨城県支部

〒310-0914 茨城県水戸市小吹町 2551

TEL.029-241-4516 FAX.029-241-4714

県内の赤十字活動をSNSで発信中!



特集

世界中の紛争や災害、病気からいのちを守る 日本赤十字社の国際支援活動

ヨーロッパの紛争や、新型コロナウイルスのまん延の陰で、アフリカの食料危機が深刻化していることは、あまり知られていません。注目される人道危機があるその一方で、目が届かない場所、手が届かない場所が生まれています。

日本赤十字社は、世界各地で起こっている人道問題に対し、資金援助のほか、看護師などの専門職員を派遣するなど、現地のニーズに対応した支援活動を続けています。

ウクライナ人道危機救援



現地で医療資機材を運ぶ日赤の薬剤師

2022年2月以降、ウクライナ各地で戦闘が激化。日々、子どもを含む死傷者が多数報告され、多くの人びとがウクライナ西部及び周辺国（ポーランド・ハンガリー・スロバキア・モルドバ・ルーマニア・ロシア・ベラルーシ）やその他の国々に避難するなど極めて深刻な人道危機が起こっています。

避難民数1,500万人以上（2022年11月現在） 出典：国連UNHCR協会
ヨーロッパ各地への避難民782万人以上、ウクライナ国内624万人以上

国際赤十字は「ヨーロッパ最大級の人道危機」と呼ばれる同危機に対し、緊急の「救援活動」に加え、中長期的な「復興支援」も視野に、懸命に活動を続けています。

日本赤十字社は、資金援助に加えて、ロジスティクス要員、薬剤師、こころのケア要員、放射線技師等、多岐にわたる人材をウクライナ及び周辺国に派遣し、この人道危機に対応してきました。今後、増大し、複雑化することが予測されるニーズに対し、中長期的な視点での支援を拡大していく予定です。

2022年8月中旬には、日本赤十字社から医療アセスメントチームを派遣し、ウクライナ西部のリヴィウのリハビリテーションセンターの改修・拡充の支援について医療的視点から調査・協議を行いました。日本赤十字社の強みである保健医療の分野を中心に、引き続き支援を実施していきます。

日本赤十字社に寄せられた救援金 74億1,903万9,330円（96,202件）

※令和4年11月28日時点（令和5年3月31日まで受付）

ご協力ありがとうございます。

アフリカ食糧危機への支援



干ばつの被害を受ける人々（ソマリア）
©SRCS

アフリカ大陸東部の地域（エチオピア、ソマリア、ケニア、ジブチ、エリトリア）では、2020年10月から続く雨不足により3期連続の干ばつに見舞われ、過去40年で最悪の事態になると言われています。干ばつ被害に加えて、一部の地域では例外的な雨季に見舞われ洪水が発生したり、バッタの大量発生が起こったり、度重なる災害が農業や水資源に壊滅的な被害を与え、深刻な貧困・食料危機を引き起こしています。

日本赤十字社は、この1年間でソマリア・ケニア・エチオピアに対し計1,500万円の緊急資金援助を行いました。

また、南部アフリカを中心に、特に脆弱な環境下で暮らす孤児や貧しい家庭への教育支援や食料自給を促す家庭菜園など、人々のレジリエンス強化にかかる開発協力を続けてきました。深刻化する食料危機への緊急対応に加え、地域社会の人々の自助・共助に向けた開発協力のアプローチにも取り組んでいます。

国際人道支援をつなぐ「NHK海外たすけあい 募金キャンペーン」



寺門支部長に募金を渡す
青少年赤十字メンバー

本キャンペーンは、紛争や自然災害などで人道支援が必要な世界中の人々を救うことを目的に、日本赤十字社とNHKが共同で毎年12月に実施している募金キャンペーンです。

12月1日（木）、NHK水戸放送局で行われたオープニングセレモニーでは、茨城県立水戸第二高等学校の青少年赤十字メンバーと茨城大学学生赤十字奉仕団の各代表者から、学校で集めた募金を届けていただきました。

お寄せいただいた募金は、安全な水や小児用医薬品等の購入、保健衛生教育の普及活動のための資金として日本赤十字社を通して現地に届けられます。

助けを求める誰かのために 海外救援金へのご協力をお願いします

日本赤十字社は、海外で大規模な災害や紛争等の緊急事態が発生した際に、被災国の赤十字社や日本赤十字社が現地で実施する救援活動・復興支援活動のための資金（海外救援金）を募集しています。

受付中の救援金については、右の日本赤十字社 WEB サイトをご覧ください。



▲日本赤十字社
WEBサイト

茨城県支部の活動報告

青少年赤十字創設100周年記念事業 “未来のあなたへ、やさしさを。”

子どもたちが中心となって茨城県大会を開催

11月2日（水）、水戸市にあるザ・ヒロサワ・シティ会館において、青少年赤十字創設100周年記念茨城県大会が開催されました。

オープニングでは、青少年赤十字加盟校である東洋大学附属牛久高等学校ダンス部によるアトラクションや、県立水戸桜ノ牧高等学校JRC部による活動事例発表が行われたほか、式典では「100周年の誓い」の唱和や作品コンクール等の表彰が行われました。

大会には約200人が参加し、参加した児童や生徒からは、「赤十字の活動を知り、より赤十字を身近に感じることができた。」「自分でもすぐに取り組めるボランティア活動を知ったので、これから活かしたい。」などの感想をいただき、新たな時代の幕開けにふさわしい大会となりました。

当支部は、これからも未来を担う子どもたちの活動をサポートしてまいります。



誓いの言葉を読み上げるJRCメンバー



賞状を受け取るJRCメンバー

作品コンクールの表彰・展示会を開催

青少年赤十字加盟校の児童・生徒を対象に「動画、標語、絵画、習字・書道」の4部門で作品を募集しました。

小学校低学年から高等学校まで1,493点の作品が寄せられ、各部門から選ばれた最優秀賞・優秀賞受賞者に表彰状と記念品を授与しました。

また、11月2日から6日までの5日間、ザ・ヒロサワ・シティ会館にて展示会を開催し、たくさんの方に子どもたちの赤十字への思いが込められた作品や青少年赤十字の100年の歩みを知る資料をご覧いただきました。



展示会場



ボトルキャップで作成したデュナン像

日本赤十字社第2ブロック支部総合訓練を実施

11月19日（土）、関東、甲越（1都8県）支部合同による総合訓練が実施されました。

この訓練は、神奈川県西部を震源とする大規模地震が発生した想定で、円滑な広域支援活動と相互に連携した災害救護活動を行うことを目的に実施されたもので、茨城県支部からは、古河赤十字病院の医療チーム1班（6名）と当支部職員（4名）が参加しました。

訓練の中で医療チームは、秦野赤十字病院に設置された現地災害対策本部の指示により、市内6つの小・中学校の避難所における巡回診療のほか、各避難所の医療ニーズ調査とライフラインや衛生環境等の状況を確認し本部へ報告しました。

また、コロナ禍での活動を踏まえ、感染防止対策を徹底して訓練にあたりました。



LuckyFM茨城放送とコラボした救急法普及動画をYoutubeで公開

赤十字は、9月の第2土曜日をワールド・ファーストエイド・デー（世界救急の日）と位置づけ、毎年、各国の赤十字・赤新月社が救急法の普及に取り組んでいます。

当支部では、LuckyFM茨城放送とのコラボにより救急法に関する動画を作成しました。同局アナウンサーの菊地真衣さんが心肺蘇生法にチャレンジした動画は、期間限定（3月末まで）で同局のYoutubeチャンネル（@Lucky-FM_ibaraki）で公開されています。

また、当支部では昨年度より救急法等の赤十字講習をオンラインでも実施しています。講習の情報や申込方法は、右の二次元コードから当支部WEBサイトをご確認ください。



赤十字サポーターのご紹介



茨城県赤十字有功会

昭和51年に創立され、現在では260人の会員（赤十字有功章を受章された個人・法人）の皆さまが、災害などで苦しむ人々や乳児院、青少年赤十字メンバーなど未来を担う子どもたちの支援活動を行っている団体です。

令和3年度実績 災害義援金・海外救援金への寄付 等

県内赤十字施設の活動報告

水戸赤十字病院 100年に感謝～これからも地域とともに～

当院は、1923（大正12）年6月14日、日本赤十字社茨城支部病院として現在の地に開院しました。以来、戦時下、災害下においても途絶えることなく、地域の中核病院として診療を続け、今年の6月に創立100周年を迎えます。100周年記念事業の一環で制作した記念ロゴ（※右下）は、病気・災害のときに人々の希望となり、未来を明るく照らすように、という願いを込めて、「輝き」をモチーフにデザインされました。

支えてくださった地域の皆さま、関係機関の皆さまに心から感謝いたします。これからも、職員一人ひとりが赤十字の責任と誇りをもって精進してまいります。



古河赤十字病院 SDGs 達成への取組み

当院では、今年度からSDGs（持続可能な開発目標）達成に向けた取組みを始めています。

当院はSDGsの17項目ある目標の中から7番目の「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」、12番目の「つくる責任つかう責任」を選定し、空調の調整や必要以上の電力使用量の削減、コピー枚数の削減による紙資源の節約など、職員が意識的にできることから対策に取り組んでいます。

日本赤十字社は、医療、人道支援、開発協力などの分野ですでに活動しておりますが、当院では通常の医療とは違う側面からSDGs達成に取組み、人類の未来のために貢献できればと考えています。



血液センター 専用アプリやLINE登録で献血が身近に

当センターは、今年度から「献血Web会員サービス ラブラッド」のアプリ化や、LINEを活用した広報を新しく始めました。

ラブラッドアプリは、献血予約だけでなく、これまで献血会場ではかできなかった問診を事前にアプリ内で回答することができるため、献血の受付時間が短縮されます。血液検査の結果もアプリ内で確認が可能です。

また、LINE公式アカウントは、1万人以上の方にご登録いただきました。登録すると、献血基準の確認（飲んでる薬による献血の可否など）、献血会場の検索、最新のキャンペーン情報など、献血に関する情報を簡単に入手できます。

どちらも右の二次元コードから登録ができますので、ぜひご利用いただき、引き続き献血へのご協力をよろしく申し上げます。



乳児院 大きなお芋が出てきたよ！

マスクを外せない日々は続いておりますが、当院には元気な声が響き渡っています。

当院の秋はイベントが多く、秋祭り、さつま芋掘り、七五三、ハロウィンと楽しみが盛りだくさんです。毎年恒例のさつま芋掘りでは、子どもたちの顔よりも大きなお芋が出てきて驚きでした。2歳児を中心に、さまざまなクッキングにも挑戦しており、収穫してきたさつま芋で大きなスイートポテト作りをしました。調理工程を首を伸ばしてのぞき込む姿がとても可愛らしく、やる気に満ちあふれていました。

職員は、日頃から栽培や収穫、クッキングなどを通して、子どもたちが食に興味を持ち楽しい食事となるよう取り組んでいます。

寒さに負けぬよう、おいしいものでたくさん栄養を摂り、丈夫な身体で、笑顔あふれる毎日を過ごしていきたいと思ひます。



皆さまのご支援（ご寄付）が活動の財源です

近年の自然災害は、多様化・激甚化の傾向にあり、避難所生活の長期化も予想されます。赤十字は、被災された方々の健康を守るため、皆さまから寄せられる活動資金を財源に、毛布や緊急セットなどの救援物資を整備しています。



例えば、5,000円のご寄付で **4人分の緊急セット**

茨城県支部では、医療チーム派遣のほかに、避難所生活時に必要な救援物資をお届けし、被災された方々の健康と安心を守ります。

ご協力方法



お振込：本紙に付属した払込取扱票（ゆうちょ銀行）をご利用ください。



クレジットカード：ホームページからお手続きください。



遺贈（遺言や相続財産による寄付）：資料を送付のうえ、詳細をご説明します。

この払込取扱票は、ご寄付を強制するものではありません。ご賛同いただきましたら、ご支援いただけると幸いです。

払込取扱票											
99	東京	口座記号番号									
0	0	1	0	0	0	7	8	9	8	7	2
加入者名		日本赤十字社茨城県支部									
ご依頼人・通信欄		おところ ※ おなまえ ※ お電話番号 <input checked="" type="checkbox"/> お礼状と領収書が不要な場合は <input checked="" type="checkbox"/> をお願いします。 <input type="checkbox"/> 不要 <input checked="" type="checkbox"/> このチラシをどこで手にしましたか <input checked="" type="checkbox"/> をお願いします。 <input type="checkbox"/> 市報・町内会の回覧 <input type="checkbox"/> イベント <input type="checkbox"/> 赤十字講習 <input type="checkbox"/> 当支部からの郵送 （救急法・水上安全法・幼児安全法・健康生活支援講習） <input type="checkbox"/> その他（ ） R4日赤茨城（冬号）									
日附印											
裏面の注意事項をお読みください。（ゆうちょ銀行）（承認番号東第53203号）		これより下部には何も記入しないでください。									

振替払込請求書兼受領証

口座記号番号	0	0	1	0	0	0
	7	8	9	8	7	2
加入者名	日本赤十字社茨城県支部					
金額	千 百 十 万 千 百 十 円					
ご依頼人	様					
料金	日 附 印					
備考	免					

記載事項を訂正した場合は、その箇所に訂正印を押してください。

この受領証は、大切に保管してください。

その本、捨てるの ちょっとまってください！

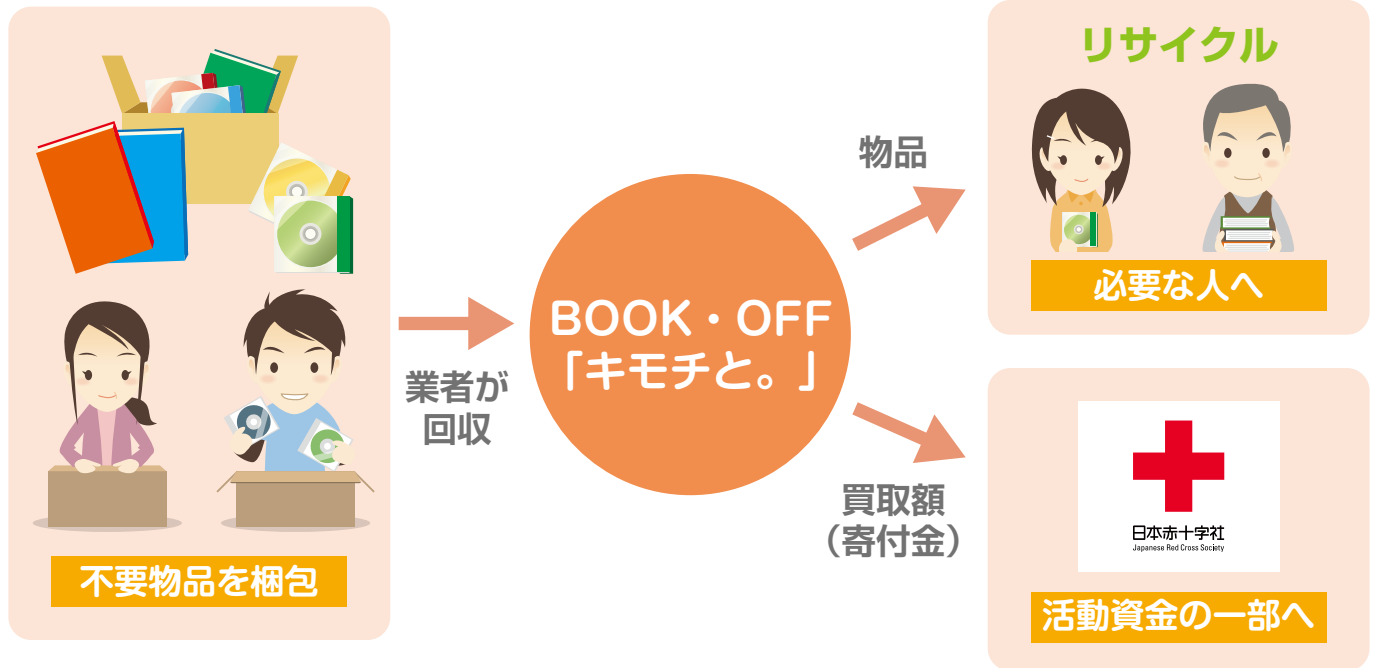
書籍やCD、ゲームソフトなどご自宅で不要な物品をブックオフコーポレーション株式会社に送り、その買取価格相当額を様々な団体へ寄付できるサービス「キモチと。」をご存知ですか。

日本赤十字社は、「キモチと。」の寄付先として登録し、集まった寄付金を救護活動などの赤十字活動に活用しています。

これを機会に不要となった書籍やCDなどの整理を兼ねて、ぜひご利用ください！



「キモチと。」の日赤ページ



資金の有効活用のため、この受領証をもって日本赤十字社の受領証にかえさせていただきます。
なお、本受領証は、免税証として利用いただけます。

払込みいただいた金額は個人については、所得税法第78条第2項第3号の規定に基づく寄付金に該当し、法人については、法人税法第37条第4項に基づく寄付金に該当します。

〒310-0914 日本赤十字社
茨城県支部 組織振興課
電話 029-241-4516

〈ご注意〉

- ・この用紙は、機械で処理しますので、金額を記入する際は、枠内にはっきりと記入してください。また、本票を汚したり、折り曲げたりしないでください。
- ・この用紙は、ATMではご利用いただけません。
- ・この払込書を、ゆうちょ銀行又は郵便局の渉外員にお預けになるときは、引換えに預り証を必ずお受け取りください。
- ・この用紙による、払込料金は無料となります。
- ・ご依頼人様からご提出いただきました払込書に記載されたおところ、おなまえ等は、加入者様に通知されます。
- ・この受領証は、払込みの証拠となるものですから大切に保管してください。

この場所には、何も記載しないでください。

町内会・自治会を通したご協力のほか、ご都合にあった方法で受付けております。
この払込取扱票は、ご寄付を強制するものではありません。